

## 地域共生社会づくりワークショップ 講師・共催者の声

### ■講師の声

車いすラグビーチームSILVERBACKS —— 選手 本間 篤史 氏・チーフマネージャー 菅原 夢乃 氏  
今回は、「パラスポーツを通じたインクルージョン&ダイバーシティプロジェクト」ということで、「地域共生社会づくりワークショップ」の題材に「車いすラグビー」を取り入れていただき本当にありがとうございました。北海道の広い地域において、またパラスポーツの特性上、新規選手の発掘や、選手の居住地ではない地域での認知度など、様々な課題を持っている中、今回、道南の函館で講演するご縁をいただきましたことを大変嬉しく思います。

参加者の高校生・大学生にとって、「障がいのある人には何かしてあげなくてはいけない」といったイメージから、日常生活も自立した選手の話聞き、健常者よりも力強くラグ車（競技用車いす）を漕ぐ姿を直接見てもらえたこと、さらに参加者全員に車いすラグビーの特徴である「タックル」を体験してもらえたことは、テレビでパラリンピックを見るよりも、感じるが多かったのではないかと、事後アンケートを拝見し実感しています。

今後もチームとして、競技に取り組む練習や試合だけではなく、「自分たちにできること」として北海道各地で競技の普及や講演の活動にも取り組んでいきたいと思っております。

### ■共催者の声

函館市保健福祉部地域福祉課 —— 主査 伊藤 陽二 氏

本市との共催で実施した今回のプロジェクトは、今年の夏から秋にかけて齋藤准教授、佐藤准教授および金准教授にご協力いただき実施した地域共生社会啓発ワークショップを発展させる形で開催されました。普段目にするのが少ない車いすラグビーという競技を通して、障がいを持ちながらもスポーツに打ち込む姿を間近に見るだけでなく自らも実際に体験することで、インクルージョンやダイバーシティを学ぶ機会を提供することができました。更に、交流する機会が少ない高校生と大学生がパラスポーツをきっかけに地域課題を共有することができたことは、持続可能な地域社会を創るうえで非常に意義のあるものだったと考えております。

本市では、今後も地域共生社会の構築を目指し、齋藤センター長を中心とする北海道教育大学函館校地域協働推進センターとさらに連携を深め、多くの方に地域社会の大切さを知っていただく機会を提供したいと考えております。



車いすラグビーを体験する参加者